



## 変えられるのは

私ごとですが、校長試験に合格したのは6回目の受験の時です。それまでの5年間は不合格、1次試験すら通りませんでした。

不合格が続くと、「またか」という思いと、原因は何だろうという思いで、「どうしたら1次試験の課題である論文がうまく書けるのか」ということを考えて、論文の練習に取り組みました。それでも、結果は不合格でした。

一方、合格できた6回目は、それまでと異なり論文の書き方ではなく、「自分が創りたい学校とは何か」という考え方で論文に臨みました。それが功を奏したかは分かりませんが、論文試験を通していただき、二次の面接も合格させていただきました。

小手先の技法に走り、学校経営の根幹を疎かにしていたことが、不合格の要因だったのかと今も思っています。

何ごとも、常にうまくいくことばかりではないかと思えます。繰り返し同じことがうまくいかず、うんざりすることもあるかもしれません。

そのような時、手法を変える、考え方を変えるというふうに、自分ができることを変えていく方が案外うまくいくと、自分の経験則から思えます。

自分はこれだけ頑張っているのだからと、周りばかりに変化を求めても埒が明かないこと多いかと思えます。それは子どももこれから成長する過程で必要になってくることかと思えます。